

組織目標評価報告書（令和3年度）

部局名：

歯学部

部局長名：

長塚 仁

目標・取組	目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<p>1) 入試倍率3.0倍以上を目指す。志願者の獲得のため、入試改革を進める。</p> <p>2) 歯学部教育点検・評価・改善専門委員会が主体となってカリキュラムの点検・評価・改善を行う。</p> <p>3) 教務委員会を主体に、医療教育センターとも連携して、教職員のレベルアップを目指すFDを実施する。</p> <p>4) 歯学部棟改修時における教育効果維持のためのカリキュラムを実行する。</p> <p>5) コロナ等の感染症拡大にも対応できる新たなグローバル化推進の方策を検討する。</p> <p>6) 研究室配属等を充実させ、リサーチマインドの涵養を図る。研究志向による学位取得や専門医取得を目指す学部生を育成するため、キャリア教育をさらに充実させ、学部一研修医一大学院の連携を進める。</p> <p>7) ICT教育の方略や評価方法の向上により、更なる充実と効率化を図ることで教育効果の向上を目指す。</p> <p>8) 歯科医師国家試験の高い合格率の維持に務める。歯科研修医については、マッチ率の向上に務める。</p>	<p>1) 推薦型選抜の入試倍率は2.4倍であり、昨年度とほぼ同様の倍率を維持した。推薦型選抜の募集枠を浪人生にまで広げ、さらなる志願者数の増加を進めていく。今年度の一般型選抜の志願者数は前期2.9倍、後期10.7倍、合計では4.2倍であり、昨年および目標の3.0倍を越えている。国際パカロリア選抜において出願者が2名あり、入学者が1名決定した。パカロリア選抜での入学者は合計3名となった。今後科目変更も含めさらに入試改革を進める。</p> <p>2) 歯学部教育点検・評価・改善専門委員会を一年に一回開催しており、学生も参加し、意見・要望を聞いている。本年度も、AP・CP・DPの点検が行われた。CPIに関しては、さらに学修方法・学修過程・学修成果の評価・能動的学習・初年次教育等のガイドラインを明文化し、改訂を行った。また、DXに関する要望により、対面とオンラインの双方の利点を生かして、ハイブリッド型授業を行う必要性が明確となった。</p> <p>3) 「全ての医療現場が変わる、サーバント・リーダーシップ入門」、「死生学・認知症講義～終末期の歯科医療～」、「在宅・訪問歯科診療教育シンポジウムー地域が求める在宅・訪問歯科診療ー」の3回のFDを実施した。</p> <p>4) 新型コロナウイルス感染症対応で促進されたオンライン授業を積極的に活用しており、実習においても、昨年以上にオンラインコンテンツを拡充し、対面授業とMicrosoft Teamsを用いたオンライン授業とを併用することで、対面授業と同等の教育効果を維持している。</p> <p>5) 新型コロナウイルス感染症のため、ODAPUSは学生の安全面に配慮し中止とした。新たな取り組みとして、本年度は5回、オンラインODAPUSとして海外の大学とWeb交流を実施した。</p> <p>6) 自由研究演習では、全ての学生を各分野へ配属し、リサーチマインドを学ぶ機会を得た。また、本演習を基礎とし、学生が日本で開催されたSPRC日本代表選抜大会で優勝し、3月にアメリカのアトランタで開催される国際歯科研究学会でその成果を発表(オンライン開催)した。学部生、初期研修医を対象としたキャリアパス説明会を企画・実施した。</p> <p>7) Microsoft TeamsやZoomを用いたリアルタイムオンライン授業やMicrosoft Streamを用いたオンデマンド授業がスムーズに実施され、Moodleを用いた小テスト、レポート提出も問題なく行われた。学習成果のフィードバックのオンライン化や最終試験も一部Webを用いて行われた。</p> <p>8) 2021年度の歯科医師国家試験合格率は81%、新卒は90.2%であり国公立でいずれも1位であった。全体で61.6%の合格率のなか、教育成果があがっている。</p>
②研究領域	研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<p>大学院医歯薬学総合研究科 歯学系に統合</p>	
③社会貢献(診療を含む)領域	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<p>SDGsを常に念頭において、以下のような取り組みを推進する。</p> <p>1) 病院や研究科との連携を強化し、地域に対する社会貢献の実施体制を発展させるため、歯科医師会、同窓会、行政等との連携を拡大・強化する。</p> <p>2) 多職種連携を促進するため、医療支援歯科治療部やスペシャルニーズ歯科センターの活動を推進する。</p> <p>3) 保健所等の地域行政機関と協力して、地域保健活動を行い、予防医学を通して地域住民の健康に貢献する。</p> <p>4) グローバル化に対応するために海外大学との協定締結を推進し、国際交流の推進を図る。</p> <p>5) 学生の国際交流プログラムの主体となる(ODAPUS)を学生の安全に十分配慮しながら拡充する。歯学部国際交流委員会を活性化し、感染症の拡大等に対応した、持続可能な国際交流の形とポストコロナを見据えた交流の実施体制を検討する。</p> <p>6) スーパーシティ構想に代表される先端技術を活用した様々な医療構想に、歯科医療・歯科保健の面から提案する。</p>	<p>1) 岡山県がん連携協議会、歯科部門では、「令和3年度 がん医科歯科連携研修会」のサポートを行った。医療支援歯科治療部では、「がん治療と口腔の管理」についての市民公開講座を開催、歯科医師会からの依頼により、周術期口腔機能管理の重要性について講演を行った。</p> <p>2) 東京大学が開催する全国研究会で講演を行い、医療連携推進のための人材育成、教育に寄与した。厚生労働省 造血幹細胞移植医療体制整備事業の一環として、口腔支持療法についての研究会を行い、造血細胞移植看護基礎テキストの口腔ケアの内容を担当し、多職種医療連携推進に貢献した。がん支持療法国際学会が発表した「口腔粘膜障害のマネジメントに関する臨床ガイドライン2020-2021改訂版」の公式日本語訳版の作成を担当した。日本緩和医療学会で、がん化学療法における口腔粘膜炎対策について啓蒙を行った。</p> <p>3) 県内の保健所、学校等と協力して、学童期の歯科保健対策、高齢者のフレイル対策を中心に、歯科保健プログラムを実施した。</p> <p>5) ODAPUSは、派遣・受入ともに日本学生支援機構海外留学支援制度学生交流推進タイプに採択されており、安全面が確保され次第、再開する。スムーズな再開を可能とするため、歯学部の国際交流に関するホームページの掲載内容を見直し充実させた。昨年度からの事態により、学生のモチベーションの低下が危惧されたため、新たな手段としてリアルタイムのWebセミナーを海外展開し、学生の国際マインドの維持や国際化の推進がシームレスに行えるよう努めた。</p> <p>6) スーパーシティ、デジタル田園健康特区の構想の実現に向けて、歯科保健の観点から、企業と連携して、IT技術の具体的な応用方法の検討を開始した。</p>
④管理運営領域	管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<p>上記①②③の達成に向けて部局運営体制を強化・活性化する。</p> <p>1) 教育・研究の推進を目的として教員配置の最適化を進める。最適化により部局組織の効率化および活性化を図るとともに、若手教員の積極的な採用を図る。若手教員登用ポストの拡充を図るため、大型予算の獲得等による任期付きポストの獲得を目指す。</p> <p>2) 歯学部棟改修に際し、社会および国際連携を推進することが可能な歯学部教育を行える改修を進める。学生教育や研究活動に支障のないように代替スペースについて配慮を行いながら計画を実施する。2期工事分についても研究・教育と国際性を推進できる計画を策定し、概算要求に提出する。</p> <p>3) 危機管理への対応を図り、コンプライアンス講習会への参加を徹底する。</p> <p>4) 女性教員を積極的に採用・昇進させるとともに、国内外の将来性の高い多様な人材の確保に努めダイバーシティとインクルージョンを推進する。</p> <p>5) 学生支援や教育経費にかかる予算獲得のための基金を整備し寄付金を得る。</p> <p>6) メール会議やオンライン会議等の利用を促進し、管理運営業務の効率化を進める。</p>	<p>1) 歯科系診療科は、12診療科を4診療科に改編した。日本歯科専門医機構による専門性に準拠した部門を設置し、教員配置の最適化を含め、歯科系診療体制の効率化および活性化にむけた取り組みを積極的に行った。優秀な人材を登用する目的で、病院籍助教は公募による選考を行った。</p> <p>2) 学長および病院長のご理解のもと、歯学部棟改修について1期工事が終了し、さらに文部科学省から継続して2期工事が認められ、研究・教育と国際性を推進する計画が実現可能なものとなった。病院部分に関してはその内容と規模に関して病院と相談しながら計画し、移転時における教育スペース、診療スペースについても医学部および病院の多大なご協力をいただきながら仮移転による診療を安定的に継続した。</p> <p>3) 意識啓発研修による公的研究費等の不正使用防止に係るコンプライアンス教育、日本学術振興会のe-learning、情報セキュリティ等に関する講習受講を徹底させるべく取り組んだ。</p> <p>4) 女性教員に関して、今年度は研究科籍で助教採用1、准教授採用1が採用され、教授1、准教授2、講師2となり、女性教員の採用を進めている。外国人にも助教に男性1、女性1が在職している。また、外国人教員の1名は研究准教授の称号を得て、さらに活躍している。</p> <p>5) 同窓会の協力を得て、大学の寄付金として学生教育や歯学部棟改修に伴う教育機器の補填を目的として岡山歯学部同窓会基金を設立し、15,000千円を超える寄付金を獲得した。文科省「ウイズコロナ時代の新たな医療」に対応できる医療人材養成事業」に選定されDXに対応した新たな歯学教育への取り組みとして18,820千円を獲得した。</p>